

建設防災 ボランティアニュース 第74号

目次

- ・ 年頭のご挨拶
- ・ 後期道路施設等点検
- ・ 隅田川著名橋等ツアー研修会
- ・ 施設見学会
- ・ 北北建意見交換会 他

年頭のご挨拶

新入会員の確保などに努力！

明けましておめでとうございます。



令和初めてのお正月、穏やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、時代の一つの節目の年でもあります。会員の皆様にとってより実りある良き一年となります様お祈り申し上げます。

さて昨年、日本列島は、台風15号、19号による風水害など多くの災害に見舞われました。一日に1000mmとなる驚異的な降雨量、瞬間風速が50mを超える強烈な突風などの自然災害のほか、千葉での送電柱倒壊による長期間の停電、長野の北陸新幹線車両基地水没による運行支障など、間接的な災害により、国民生活に対する多大な支障が発生しました。

ここ東京でも多摩地域をはじめ各地で浸水、多摩川、秋川の堤防決壊、奥多摩地域の土砂崩れによる道路通行止めなど、多くの被害に見まわれました。被害に遭われた会員の方には心からお見舞い申し上げます。また事前の防災対策や発生後の復旧に向けた、各建設事務所をはじめ建設局職員の方々のご努力に対しお礼を申し上げるとともに、多くの当協会会員のご尽力に対しても心より敬意を表させていただきます。

この様にいつ甚大な災害が起こるかわからない昨今、当協会の役割に対する期待がますます大きくなっていく事は言うまでもありません。そのため

にも、新入会員の確保、災害時の役割の確認、建設局との更なる連携強化は、協会として今後一層の検討の深度化が必要と考えます。会長として、より具体的な道筋の確立に向け努力して行きたいと思っておりますので、会員各位のご理解ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、引き続き東京都建設局、(公財)東京都道路整備保全公社、(公財)東京都公園協会の当協会への一層のご理解ご支援を賜りますとともに、ご発展、ご繁栄を祈念申し上げます。また会員各位の協会活動への積極的なご参加をお願い申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

令和2年 元旦

会長 山口 明



後期道路施設等点検は延伸に

台風19号は都内の道路、河川に大きな被害をもたらしました。今年度後期の「道路の施設とバリアフリー点検」は、この復旧対応による事務所への負担を考慮し、開始時期を遅らせるとともに終了時期が3月まで延伸されました。このため、今回は既に実施された南東建班の点検報告のみを掲載します。

これから参加予定の事務所班におかれましては、寒い中の点検となりますので、体調等十分注意していただくとともに、実施後の速やかな報告をお願いいたします。

担当理事 久保田元久

快晴の中 10 名が点検・・・南東建班

12月3日、南東建班10名(敬称略。R班:武内、原田、矢内、若尾、佐々木。L班:杉本、織田、丸岡、大坪、柴田)は、令和元年の締めとなる後期徒歩点検を実施しました。

前日の天気とは打って変わり朝から快晴の中、午前9時25分頃、所のバスにて現場に向かいました。本日の点検箇所は芝溝街道の山根橋右岸橋詰(境川右岸側で相模原市と町田市との境界部)から新袋橋交差点(鎌倉街道交差部)までの間、約4km余の点検コースでした。途中、道路拡幅事業中(用地、工事)の箇所も1km前後含まれており、片側歩道のための箇所や歩道スペースのない箇所もありました。



こうした箇所では所内工事課と補修課とが連携して道路の整備・保全にご苦労されている様子を垣間見ることができました。点検作業は山根橋橋詰を起点に、芝溝街道の歩道部を左右(R班とL班。)に分かれ、所の担当者(R班:佐藤様、L班:田中様。)がボランティアと各々同行して実施しました。

点検途中では地元の方から、「何をやっているのか?市役所の人かい?」などと声をかけられ、「東京都です。歩道を利用される皆様が、例えば、デコボコの路面でつまずいたりしないよう安全、安心な道路となるよう点検しています。」と応え、地元の方からは、「ご苦労様。ありがとう。」との感謝の言葉とともに、沿道の砂利敷駐車場からの砂利のこぼれへの善処要望もいただきました。

また、点検中に振り返ると快晴の青空のもとで雪化粧をした素晴らしい富士山の姿を丹沢山地



の後方に眺めることができました。天空からの素敵な贈り物にしばし癒されました。

本日の点検結果概要は全体で1

5件あり、管理課もの(看板、標識の破損等)が多く、補修課もの(沿道擁壁のシール材の出っ張り、反射鏡の破損)も若干ありました。所の関係者には今後ともご苦労様ですが、安全で快適な道路の保全管理にご尽力されるようお願いいたします。

点検は終点の新袋橋交差点に11時30分頃到着し、全員で綾部原トンネルをバックに記念撮影した後、所バスにて12時少し前には全員無事、帰還しました。到着後、澤井所長、福永副所長、荒井補修課長さんから、丁寧なご挨拶をいただき、私たちこそ、この1年の所の絶大なるご支援に深く感謝している旨のご挨拶をした後、帰路につきました。



途中、いつもの場所にて有志9名による昼食懇親会を盛大に行い、最後に佐々木副リーダーの締めをもって、本日の全予定を終了いたしました。ご参加いただいた会員の皆様、大変お疲れ様でした。来年もよろしくお願いいたします。

南東建班 柴田賢次



施設見学会開催

中防外側埋立地がオリ・パラ施設に活用

令和元年 11 月 13 日(水)、環境局所管の中央防波堤外側埋立処分場及び新海面処分場の見学会を実施しました。当日は時々青空が顔を出す曇天で、絶好の見学日和となりました。当初の参加申し込みは 39 名でしたが、会社の職務上の都合で 7 名がキャンセルされ、参加者は 32 名となりました。

中央防波堤外側埋立処分場及び新海面処分場は、港湾局が二重鋼管矢板式護岸及びケーソン式外周護岸等を構築し、その護岸で囲まれた中に環境局(環境公社等を含む)が 23 区内で発生する一般廃棄物の処理残渣や下水汚泥等の都市施設廃棄物、及び都内の中小企業が排出する産業廃棄物を埋立処分しています。

中央防波堤内側埋立地・外側埋立処分場・新海面処分場



参加者は新木場駅南側で大型バスに乗り込み、予定通り午後 1 時に出発、午後 1 時 20 分に中央防波堤内側の環境局中防合同庁舎に着きました。

合同庁舎の 10 階に上がり、フロアを一周できる展望回廊から、環境公社相談役の金田忠世さん

から説明を受けながら、2020 年オリ・パラ競技場である「海の森クロスカントリーコース」や「海の森水上競技場」、そして中央防波堤内側の中間処理施設群や堤防外側のコンテナヤードや新海面処分場等を見学しました。

午後 1 時 40 分から、10 階の「説明会場」において、23 区内のごみの収集・運搬から中間処理、埋立、覆土までのプロセス及び浸出水処理フローや埋立処分場の移り変わり、廃棄物埋立処分量の推移、エネルギーの有効活用等について、具体的に丁寧な説明がありました。



合同庁舎の 1 階に下りて大型バスに乗り込み、午後 2 時 15 分、中央防波堤内側及び外側埋立処分場、新海面処分場の現場に出発しました。車中で、金田忠世さんの流暢な説明を聞きながら、粗大ゴミ破碎処理施設や不燃ゴミ処理施設等の中間処理施設群、堤防外側の受付ゲートや集水池、調節池、泥落とし場等を見学しました。

処分場で最も高い位置にあり 360 度見渡せる「見晴台」で、参加者は大型バスを降り、新海面処分場のみならず沖合の羽田国際空港方面の眺望を堪能し、記念に参加者全員で集合写真を撮りました。



現場の見学を終えて一旦合同庁舎に戻ってトイレタイムをとり、午後 3 時 15 分にレインボーブリッジ経由で東京駅丸の内広場に向かって出発しました。レインボーブリッジは有料の高速道路でな

く一般道の臨港道路を通ったことで、バスガイドさんから“いま『ビンボーブリッジ』を通過しています！”とアナウンスされ、思わず苦笑いした参加者もいたと思います。

東京駅丸の内広場の到着は、予定よりも30分早い午後4時でした。これをもって、令和最初の施設見学会は全ての日程が終了しました。

担当理事 藤田 進

思い出深い見学会に

令和最初の施設見学会が11月13日午後開催された。目的地は環境局所管の中央防波堤外側埋立処分場と新海面処分場。ごみの最終処分地であり、建設残土も使われることから、関心はあってもこれまで見学の機会に恵まれなかった会員は少なくないだろう。

参加者は32名。新木場駅に集合し、東武セントラルの貸切バスに乗る。冒頭挨拶で山口会長は、本会の活動について、これまで震災を念頭に置いてきたが、水害も視野に入れるべきかと話された。駆け出しの頃一建で神田川の改修に係わった者として、まったく同感。

中防合同庁舎では、大勢の修学旅行生に混じって最上階の展望室に上がり、環境整備公社の職員から説明をいただいた。眼下には海の森水上競技場が広がる。2020大会では警備の拠点となるとのことだが、ボート競技の絶好の観覧場所でもありそう。



埋立の歴史を航空写真で確認した後、粗大ごみ破碎施設や不燃ごみ処理センターをバスで巡る。リサイクルが進み、粗大ごみは相当程度減少したが、近頃は布団が多くなったと言う。また、ベ

ッドが難物で、破碎機が壊れないよう、中のばねを一つひとつ手作業で取り外しているのだそうだ。



続いてバスは中防大橋を渡り、核心の新海面処分場へ。ゲートから先は一般の立入りが禁止されている。沈殿池や調節池、今は使われなくなったメタンガス抜きのパイプなどを車窓から見て、見晴台へ。高さ30メートルほどのこの場所から、遥か東京湾アクアラインや羽田空港、東京スカイツリーを見渡すことができる。一帯に広がる緑は職員が退職の記念に植えた木々。他方、定年の頃には癌を患う職員が多かったとの説明を受けた。

さて、処分場があとどれくらい持つのかと聞かれたら、50年と答えることになっているそうだ。現場の感覚では70年くらいかとも言うが、その先の道筋はまだ描けていない。「限りある埋立空間 大切に」と刻まれた平成12年の碑が、今なおわれわれに訴えかけている。一都民として、ごみの抑制に一層努めねばならないと感じた次第。

今回の見学会を企画された担当理事の方々に厚く御礼申し上げ、報告に代えさせていただきます。

四建班 遠藤正宏

隅田川著名橋等ツアー研修会

隅田川著名橋等ツアー研修会が、12月3日(火)午後3時15分、東京都道路整備保全公社において、協会・公社・建設局から48名の方々にご参加いただき開催されました。

勝鬃橋の長寿命化工事に伴い、代替え案として始まった「隅田川著名橋等ツアー」もこの2月27日のツアーで最終案内を迎えます。こうした中、今回はお客様の応募状況やツアーへの評価、そ

して橋についての知識を改めて勉強をする研修となりました。



冒頭の山口会長の挨拶に続き、御来賓の道路整備保全公社の東一常務理事から、「東京の顔となる隅田川を皆様の豊富な知識で説明することが、多くの方に感激を与えている」との励ましのご挨拶を頂戴しました。

続いて、道路整備保全公社の清水担当係長から「隅田川著名橋等ツアーの開催状況など」として、平成30年12月から令和元年10月までの10回(3月は休止)で、延べ86名の会員が案内し、お客様は152名、平均当選確率4倍、ツアーの満足度93%という、嬉しい報告がありました。また、「案内頂いた方々の熱心な勉強ぶりに感謝」とか「ガイドの皆様方の生き生きとした姿を見て、私もこのようなシニアになりたいと思った」などのツアー参加者の感想も紹介されました。

次に10年継続してツアーを担当された、中込孝仁、林健一郎、藤井健介、藤田進の各氏が紹介され、出席された方々に、会長から感謝状が贈呈されました。

恒例の講演会は、まず道路管理部の加藤順一橋梁構造専門課長から「勝関橋の長寿命化事業について」と題して、補修工事が進んでいる勝関橋の現状と今後の予定、そしてようやく足場が撤去され始めた著名橋群のライトアップの状況が紹介されました。また勝関橋工事終了後には「ミニツアー」を再開する予定であるとのお話もあり、来年への期待が膨らみます。



続いて道路建設部の紅林章央橋梁構造専門課長から「歴史と文化が見える橋」と題した1時間の講演です。同課長は一昨年「橋を透してみた風

景」で土木学会出版文化賞を受賞され、最近はNHKの「ごごナマ」にも出演されるなど、活動の幅を広げられておられます。すべて自ら出かけて撮影した全国津々浦々の数千枚の写真の中から、厳選された240枚を超える橋の写真とこれらにまつわるお話は、極めて興味深く、また役に立つ講演でした。ありがとうございます。



ご存じ、熊本県山都町の通潤橋



「スカーレット」 甲賀市信楽の朝宮橋



願いましては！「竣功年度 1986」 小野市の大住橋

講演終了後、場所を二庁4階職員食堂に移して懇親会が開かれました。新たに公務を終えられた花井道路保全担当部長が駆け付けられ、改めてご挨拶いただくとともに、原島一建所長、今宮保全課長、本間橋梁構造専門課長もご出席され、ご挨拶をいただきました。

また道路整備保全公社からも漆戸公益事業課長などが参加され、今年で終了する著名橋ツアーと再開予定の勝鬨橋ミニツアー、そして本日の講演内容等を肴に、39名が和やか、かつ賑やかに懇親を深めました。



担当理事 林幹生

十一⇒土、十八⇒木 ???

土木コレクション 2019 が開催されました

11月18日は「土木の日」。この日に近い11月14日(木)から17日(日)の期間で、新宿駅西口広場において「土木コレクション 2019」が開催され、16人の会員が案内補助として参加しました。

この催しは、昨年までは、前号で紹介した「東京 橋と土木展」と同時に開催されていたものですが、今年度に限り、「東京 2020 大会」を迎え発展してきた東京を紹介しようと規模が大きくなったため、時期をずらしての開催になりました。

初日には林土木学会会長、小池知事、山田国土交通省技監によるテープカットがありました。展示は関東大震災や戦災を乗り越えて復興、発展してきた東京のイン



フラ整備の流れを、建設局、国土交通省、JR 東日本 東京メトロ、首都高速道路などが作成した写真やパネルなどで実感するものでした。

特に土木技術支援・人材育成センターで作成した、1920～2020 年を10年ごとに区切り、年表や時代を表す写真、街路や堤防の整備状況を示す地図で構成されたパネル、大きく拡大し床に張られた航空写真は、東京の発展を実感できる素晴らしい展示でした。



人気のセンター作成の地図とパネル

その他、映像スペースや講演会もあり、楽しくかつ勉強になる催しでした。来年は再び「東京 橋と土木展」との共催となる予定ですので、会員にはぜひ足を運んでいただくとともに、案内活動にもご協力いただくようお願いいたします。



古川公毅顧問の講演がありました

担当理事 林幹生

意見交換会の開催・・・北北建

令和元年 10 月 4 日、北多摩北部建設事務所との意見交換会が行われました。

午後 1 時に北多摩北部建設事務所に集合。意見交換会に先立ち、周郷所長、工事第一課長、工事第二課長、用地課長の案内で現場視察をさ

せていただきました。

まず初めは、新府中街道です。国分寺3・2・8号線の平成29年3月に交通開放された区間を通り、西武国分寺線立体部に向かいました。この交差部はアンダーパスで、地下のボックス部分は2019年2月に既に完成しています。今回の現場は、その南側の掘割部の擁壁設置工事です。関係人の協力により、本線工事に必要な土地を一部先行して取得し、工事に着手できたとのことでした。



国分寺3・2・8擁壁設置工事現場

再びマイクロバスに乗り、車中から小平3・2・8号線の用地取得状況の説明を受けながら清瀬に向かいました。用地取得の難航、訴訟や反対運動など様々な困難があった現場ですが、着実に事業が進んでいることを実感しました。

次は東村山3・4・15の2(新東京所沢線)の清瀬橋排水施設設置工事です。北北建の北側の地域は雨水対策が大きな課題であり、その対策として柳瀬川の右岸側に道路施設としての調節池(貯水容量約1,500m³)を設置する工事です。職



員の説明の後、施工会社のドローンを使って作成した映像での説明があり、測量にも活用できるとの説明にボ

ランティア一同感心させられました。

清瀬橋からは徒歩で柳瀬川の上流に向かい、途中、空堀川と柳瀬川の合流点、河畔林など自

然環境をうまく残した柳瀬川の旧川の整備状況を見ながら空堀川を上流に向かい、三郷橋まで、空堀川の河床整備箇所を見学しました。環境保全や地元の要望などと折り合いをつけながら整備を進めた苦労は並大抵ではなかったと思いました。

帰りは、再びマイクロバスに乗り、立川3・3・30号線(立川東大和線)の計画線を辿りながら事務所に帰着。立川3・3・30号線は現況測量にはいったところで、反対のステッカーがそこかしこに見受けられ困難も予想されますが、何年後かの進展が楽しみです。

事務所に帰り、副所長から事務所の概要説明があり、ボランティアからは活動報告をした後、意見交換を行いました。

最後は事務所の管理職全員と参加ボランティア9名とで懇親会を持ち大いに盛り上がり、終了になりました。

忙しい中、午後半日をかけ丁寧な対応をしていただいた周郷所長をはじめとする北北建管理職の皆様、準備をしていただいた担当職員の皆様に改めてお礼申し上げます。

北北建班 藤井健介

新会員の紹介

次の方々が新たに入会されました。

尾上 靖さん(五建班)

金子喜永さん(南西建班)

佐藤嘉久男さん(三建班)

西倉鉄也さん(本部・顧問)

藤井寛行さん(本部・顧問)

佐藤嘉久男さんからご挨拶をいただきました。



この度防災ボランティアの一員に加えていただきました佐藤嘉久男です。都を退職後、(株)NTT データアイに4年半勤務し、昨年4月から株木建設(株)に勤務しています。よろしくお願いいたします。

すでに65歳を超えていまして、遅れてやってき

た新人かと思っていましたが、ここ 2～3 年前に入会された方にも 65 歳を過ぎて入会された方が何人かいらしたのを知り、驚いた次第です。

私が防災ボランティアにすぐに加入しなかったのは、事務職であったこと、建設局での勤務歴が 7 年に過ぎないこと(総務部用度課長、道路管理部管理課長、第二建設事務所副所長)、最後の職場が総務局であったことなどの理由によります。つまりボランティアとしてお役に立てないのではと思っていたからです。昨年の建設同友会総会で林幹生先輩から、入らなければ駄目だと強く言われ、入会を決めました。

ボランティアでありながら、知識、経験とも不足しているので諸先輩、また現役の職員の方の助けを借りなければならず、忸怩たる思いではありますが、精一杯努めてまいります。

現在は週 3 日勤務で時間がありますので、仕事以外、いろいろと楽しんでいます。歌舞伎、文楽、映画、演劇、コンサート、美術展などに足を運んでいます。会員の方とはこれらの分野でも交流できればと考えています。ただ、残念なことにインプットだけで、アウトプットする趣味がありません。手足を使う趣味、活動も必要だと最近思うようになりました。これは今後の課題です。

まだ、ボランティアとしての活動はしていませんが、今後は積極的に活動してまいります。私が配属になった第三建設事務所はボランティアが少ないと聞いていますので、微力ではありますが、貢献できればと考えています。よろしく願いいたします。

訃報

山縣正彦様の訃報に接して

令和元年12月21日に、西建班サブリーダーの山縣正彦さん(64歳)がご逝去されました。同じ西



多摩在住であったご縁もあり、西建班でご一緒させていただきました。いつも西建のボランティア活動に主導的に参加さ

れ、活動後の一杯会では、好きな日本酒をのみながら明るく『世のため人のため』は自分のため』とおっしゃっていたお姿が思い出されます。

山口県出身で、県出身校の東京県人会のまとめ役をするなど、情に厚く議論好きで、楽天的な県民性を持った方でした。山口県の酒について、瀬祭をはじめ五橋、雁木、東洋美人など銘酒を語ると熱く、話は尽きませんでした。

昨年春に腎臓がんを発症され、本年開催予定の伊豆大島 100 キロマラソンへの出場を夢みて治療に専念しておられました。

まことに残念です。西建班一同、心からご冥福をお祈り申し上げます。

西建班 東野寛・谷村秀樹

協会からのお知らせ

- ① 各班の活動報告をお待ちしています。下記編集担当理事又は林まで連絡願います。
林アドレス(mikio.hayashi@okumuragumi.jp)
- ② 協会のH. P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板)には、最新の情報、ニュースのバックナンバー、建設局報などが載っています。
アドレス(<http://tokyo-adv.info/>)

編集後記

今年は河川愛護月間や道路施設等点検の実施時期が大幅に変わるとともに、新しい活動も増えたことなどから、対応が間に合わずニュースの発行時期も遅れ気味になってしまいました。平成から令和へと時代も大きく変わる中、変化に合わせた柔軟な対応が必要と感じています。

発行人 山口 明

発行 東京都建設防災ボランティア協会
新宿区西新宿 2-7-1

小田急第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内

編集 佐野正生、高橋紀男、林幹生、
堀内康彦、丸岡敏夫

